

理科 第6学年 月と太陽 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「月の形が違って見えるのは、太陽との位置に関係があるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(5)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：日中に安全に見える月と太陽の方向の観察記録を比べ、月の明るい側に印を付ける。光源を太陽、球を月に見立て、観察者の位置を地上に見立てて球の明るく見える部分を描く。模型の結果を実際の記録と照合する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(5)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：月自体が削れたり増えたりするという説明には、球の形を変えずに見え方が変わる模型を見せる。月食の地球の影と混同しないよう、模型の光を体で遮らない 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(5)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。地上の観察者からの見え方を確かめる活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：太陽を直視しない。光源をのぞき込まない。夜間観察を児童だけで行わず、学校の観察記録や画像でも学習できるようにする 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(5)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：日中に安全に見える月と太陽の方向の観察記録を比べ、月の明るい側に印を付ける。光源を太陽、球を月に見立て、観察者の位置を地上に見立てて球の明るく見える部分を描く。模型の結果を実際の記録と照合する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全5時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「月の形が違って見えるのは、太陽との位置に関係があるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「月の形が違って見えるのは、太陽との位置に関係があるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。月の形の見え方を位置関係で説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

